

入 選

私たちにできること

二年 高橋咲季

去年の夏休みのことでした。休み明け、私は学校にいけなくなっていました。小さなことでクヨクヨ悩んでしまつて、朝になると頭が痛くなつて起きたくない気持ちでいっぱい泣いていました。

学校を休んでしまつたある日の夕方、そんな私を心配した母がペットショップに行つてみないかと私をさそつてくれました。あまり乗り気ではなかったですが、私は母について行くことにしました。お店に入つてみると、たくさんの子犬たちがしっぽをふりながらキャンキャンとないていました。まるで私のことを歓迎しているように感じました。ガラスに近づくとき子犬たちはピョンピョンうれしそうにとびはねていました。ふと足元を見ると、床に置いてあつたゲージの中にほとんど成犬になつた白い犬がいました。私はだつこしてみたいと思つたので、お店の人に頼んでひざにのせてもらい、ふわふわな毛を優しくなでました。私はこの子に一目惚れしてしまいました。それに、私がこの子を飼わなかつたら、だれが飼うのだろうと思ひました。この子はどうなるのだろう。絶対に連れて帰りたいと母に頼みました。そして私はその子をモブと名づけ、飼うことにしました。モブが家に来てくれたから一年が経とうとしています。ペットショップにいたときのモブはおとなしく、ひとつもほえなかつたので

元気がないと思い、少し心配でしたが、今ではたくさん甘えてきてくれて、遠慮せずにはえて、自己主張するようになったので、私はそんなモブを見て安心してうれしく思います。

その一方で、かわいそうな動物たちもたくさんいます。例えば、ほんの一部の人だけだと思いますが、動物に意図的にえさを与えないで餓死させたり、ひどい環境で飼つたりして動物をもののようにあつかつていることをインターネットや、テレビのニュースなどで知りました。私はそれを知つて胸が痛い気持ちになりました。それから、動物虐待をどうしたら減らせるのか、何か私にできることはないか、考えてみました。飼い主が責任と愛情をもつて最後まで飼うのは当然のことですが、それだけでは動物虐待はなくなりません。もし、虐待を見つけたときは証拠になる写真や、音声をとつてアニマルポリスや、動物愛護センターに通報して、保護された動物たちに関しては、寄付や、譲渡を希望して引き取るのも良い方法だと思いました。

最後に、動物は人を幸せにする力があるので、自分も動物を幸せにしてあげられるように努力していきたいです。